

令和 7 年度 県立高萩清松高等学校自己評価表

目指す学校像	◎自主自律の精神を重んじ、知徳体にあつた「生きる力」を育成する。 ○自ら学び…生涯にあつて学び続けようとする姿勢 ○自ら創り…知識や情報の中から知恵を絞り新たなものを生み出す探究心 ○自ら拓く…人生を切り拓く強い意志		
三つの方針		具 体 的 目 標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○主体的に学ぼうとする姿勢と新たなものを生み出す探究心を育み、自己の人生を切り拓き、地域社会に貢献できる人材の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○基礎学力の向上を目指しつつ、生徒の学習ニーズに対応した教育課程による、多様な進路希望の実現	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○普通高校と専門高校の長所が一つになった「総合学科」の本校において、各系列との適性を見極めながら、自らが望む将来を自ら創ろうとする生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
成果は、教職員が様々な教育場面で生徒に寄り添い、個に応じて適切な指導・支援をしてきたことから、基本的な生活習慣の定着が進んできたことである。また、生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な学習指導や、ICT 機器の適切な管理と活発な利用は、生徒の基礎学力の定着や希望進路の実現を図ることに寄与できている。また、総合的な探究の時間を中心とした探究的な学びを各教科でも取り入れ、授業改善や外部人材の活用が進んだ。	① 自主自律の精神と豊かな心の育成	ア 基本的な生活習慣及び社会的ルールや社会生活に必要なマナーを身につけられるよう支援する。 イ 「挨拶」をする・「時間」を守る・「身だしなみ」を整えるということを徹底し、規範意識を高め、自ら進んで行える礼儀正しい誠実な生徒の育成に努め、地域から信頼される学校づくりを目指す。 ウ 奉仕的活動等への参加を積極的に推進し、豊かな人間性を養う。 エ 「道徳」及び「道徳プラス」の指導を工夫し、他人を傷つけず、思いやりのある豊かな心を育成する。 オ 生徒一人ひとりの個に応じたきめ細かな指導に努める。	B
	② 将来の夢や希望を実現するキャリア教育とICTの推進	ア 生徒が将来の夢や希望を実現できるよう、進路に応じた基礎学力の定着や資格取得に力を入れる。 イ 進路実現に向け、家庭での課題を課したり、提出の期限厳守を徹底したりして、自宅学習を支援する。 ウ 授業「産業社会と人間」等を通して、キャリア・パスポートを活用し、1年次からキャリア教育を実施することで、自ら進路を選択し、目標を決定できる力を育成する。 エ ICTを活用し、主体的に学ぶ姿勢と課題発見、課題解決能力を育成する。	A
	③ 他者との協働による特別活動の実践とシティズンシップ教育の推進	ア 部活動への積極的な参加を奨励し、主体的な活動で個性を伸ばし、さらに充実した学校生活を送らせる。 イ 学校行事への積極的・意欲的な参加を促すとともに、ホームルーム活動、生徒会活動等を充実させ、達成感を味わわせ、連帯意識を培う。 ウ シティズンシップ教育を通して、自分たちの課題について、自分たちで話し合い、自己決定する力を育成する。	B

別紙様式 2 (高)

課題は、教科横断的な探究活動の推進を図っていくことと、生徒が主体的に判断し行動する力とコミュニケーション能力の向上、引き続き基礎学力を定着させていくことである。		④ 働き方改革とコンプライアンスの徹底	ア 伝統として続いている学校行事は見直しを図る。 イ 仕事の生産性を高め、業務の効率化に努める。 ウ 教育者としての自覚をもち、服務規律の確保に努める。 エ 時間外在校時間における月平均時間、月平均 45 時間超過者割合、月平均 80 時間超過者割合を減少させるため部活動も含めた担当業務の見直しと平準化を図る。			B
		⑤ 生徒の学びを引き出す授業改善の推進	ア 生徒の授業満足度 (KPI) 3.8 以上を目指し、授業改善に取り組む。 イ 生徒の求める授業を実践するため、授業改善推進チームを中心に授業改善を推進する。			B
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上	・漢字を反復練習することにより、語彙力の定着を図る。			A	・成績不振の生徒に対し、きめ細やかな指導の徹底。 ・文章力の向上を目指し、授業内で積極的に文章を書く機会を設ける。
		・読書を通して語彙を豊かにし、一般的な読み取る力を身につける。			B	
		・感想文や意見文など文章を書く機会を多くすることにより、文章表現力を高める。			B	
		・グループ活動やディベートを行い、「話すこと・聞くこと」の能力を養い、コミュニケーション力を高める。			A	
	個に応じた指導の工夫と授業改善	・生徒の能力と実態にあった年間指導計画を作成し、それに沿った学習指導を実践する。			A	
		・授業内容を生徒の能力と実態に合わせ、達成感や充実感を味わえるように工夫改善する。			B	
		・電子黒板や I T 機器等を有効活用して、生徒の理解力が高まるように努める。			B	
		・小テスト等を通して学習の理解度を確認し、学力向上に生かす。			B	
	成績不振者や欠課の多い者への適切な指導	・考査の結果の悪かった者には、次回に向けての必要な補充指導を行う。			B	
・欠課時数の多い者には、担任と連携して生活改善の指導を行う。			A			
地歴	基礎的な学力の向上	・文章等で生徒が表現する機会を通して、理解力・表現力を高める。			A	・生徒が進んで課題を見つけられるような資料や情報の提示 ・ICT を活用した学習の一層の推進 ・成績不振者へのきめ細やかな指導
		・プリントや資料・映像、ICT などを有効に活用して、学習内容の理解を高める。			B	
		・提出物やノートを確認し、授業への集中力と理解度を確かめる。			A	
	一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と授業改善	・授業内容を能力と実態に合わせ、興味関心を持つように工夫改善する。			B	
		・講義内容を精選し、興味関心を高める教材を利用する。			A	
		・自ら課題を見つけ、解決する力を養うためにアクティブラーニングの手法を取り入れ、活用する。			B	
	成績不振者や欠課の多い者への適切な指導	・考査の結果の悪かった者には、その時点で必要な補充指導を行う。			B	
		・小テストや提出物等により、生徒のつまずきを確認し指導する。			A	
	公民	基礎的な学力の向上	・文章等で生徒が表現する機会を通して、理解力・表現力を高める。			
・プリントや資料・映像、ICT などを有効に活用して、学習内容の理解を高める。			B			
・提出物やノートを確認し、授業への集中力と理解度を確かめる。			A			
一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と授業改善		・授業内容を能力と実態に合わせ、興味関心を持つように工夫改善する。			B	
		・講義内容を精選し、興味関心を高める教材を利用する。			A	
		・自ら課題を見つけ、解決する力を養うためにアクティブラーニングの手法を取り入れ、活用する。			B	

別紙様式 2 (高)

	成績不振者や欠課の多い者への適切な指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査の結果の悪かった者には、その時点で必要な補充指導を行う。 ・ 欠課時数の多い者には、担任と連携して生活改善の指導を行う。 	A		な指導
数学	基礎的な学力の向上	・ 基礎的な計算能力を養うための教材を作り、計算力を高める。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な学力の定着に向けた指導の改善 ・ 数検や進学希望者向け個別指導など、進路実現に向けた取り組み ・ 成績不振者に対する指導の徹底
		・ T T の実施や ICT を活用することで、基礎学力の向上に努める。	A		
	希望する進路の実現	・ 就職対策のため授業規律を意識した指導をする。	B	B	
		・ 資格取得のための課外、実力養成のための課外授業を設ける。	B		
		・ 大学進学や専門学校、就職など生徒のニーズに合わせた進路別の授業を展開する。	B		
	指導方法の検討と授業改善体制の確立	・ 教科会を開いて情報交換を行う。	A	A	
		・ 評価方法及び授業の進め方の検討をする。	A		
成績不振者への指導	・ 考査の点数が低い生徒に対して、必要に応じて定期考査前に個別指導を行う。	A	B		
	・ 習熟度別の講座を作り、少人数で実施し、基礎力の定着を図る。	B			
	・ 授業に集中していない生徒に対して、担任と連携を取りながら学力の向上に努める。	B			
理科	科学的な探究力の向上	・ 観察実験等を通して、科学的な思考力を身に付けさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績不振者への支援 ・ 進路に応じた支援の工夫 ・ 最新の科学技術の発展を踏まえた教育内容の更新
		・ ICT を効果的に利用することで、科学的な自然観を身に付けさせる。	B		
	進路実現に向けた指導の充実と授業改善	・ 生徒の進路希望に応じた課外授業を実施し、生徒の進路実現に努める。	A	B	
		・ 少人数制の授業により、生徒一人ひとりの力を伸ばす指導方法を研究する。	B		
	・ 授業の中で演習問題を行い、希望する進路に対応できる学力を身に付けさせる。	B			
成績不振者や欠課時数が多い者への指導	・ 担任と連携し、生徒の学力向上及び学習態度改善に努める。	A	A		
体育	基本的な生活習慣の確立	・ 集団行動を通して、協調性を高め、規律ある行動がとれるようにする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季の熱中症対策を万全に遂行するための方策を検討する。
		・ 5分前行動を徹底させるため、教員が率先して5分前行動を行う。	B		
	基礎的な体力の向上	・ 生徒の能力に応じた年間学習計画の中に体力を高める運動を組みこむ。	B	B	
		・ 体を動かすことへの興味関心を持たせる為、授業の工夫改善を行う。	B		
	生徒が興味関心を持つ授業改善と研修体制の確立	・ ICT の活用、教材研究に励み、良いものがあれば全体で指導ができるような体制をつくる。	C	B	
		・ 評価は、技能・関心・自主性等を加味し総合的に行う。	B		
成績不振者・欠課時数の多い者への指導	・ 成績不振者へは、担任と連絡を密にし、補習授業などを行う。	B	B		
	・ 欠課時数の多い者には、学年、担任とともに生活改善指導を行う。	B			
芸術	基礎学力の向上	・ 基本的課題の設定を行い、苦手意識を払拭し、製作や表現することへの充実感を体験させる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ より新しい感覚と情報を知ることによって、生徒の興味や共感を引き出す引き出しを増やす。 ・ わかりやすい言葉、理解できるステップを想定して、そこから徐々に引き上げる。
		・ 教科書を教えるのではなく、教科書で生徒の感性に合った教材を選択し教える。	A		
		・ 生涯教育として芸術を愛好する心情を養うために、鑑賞指導を大切にして、幅広い多様な芸術表現の情報を紹介することにより、共感することと共有することを体験させる。	A		
	個々の能力を伸ばすための指導の工夫と授業改善	・ 個別創作やレッスン指導を通して生徒の能力を把握し、それぞれに合わせた課題や教材を設定する。	B	B	
		・ 作品を完成させる喜びや楽曲・作品を表現できる喜びを体験させるために、ワークシートや話し合いを通して生徒理解に努める。	B		

別紙様式 2 (高)

		<ul style="list-style-type: none"> ・より深く芸術に親しむことのできる生徒を育てるために、芸術の歴史や知識に触れる機会を積極的に持つ。 ・実技試験や作品発表を行い、生徒自身の自己評価だけでなく、他者の努力を認め賛美する心を育む。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・質へのこだわりよりも、生徒が考え、意見を持ち、言葉にすることを優先する。
	成績不振者への指導方法の改善と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は授業に対する興味・関心・作品・レポート等を総合して行うこととし、成績不振者に対しては担任と連携して学力向上に努める。 	B	B	
外国語	基礎学力の向上・定着	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に課題を与え、学習方法を学び、基礎を身に付けさせる。 ・中学で学んだ文法事項の復習や新出事項の反復練習を通して、その定着を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力のさらなる向上 ・大学進学希望者を対象とした英語実力養成講座があっても良い
	実践力やコミュニケーション力を付ける授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・英検取得を奨励し、希望者を対象に補講を実施するなどして、英検合格者を増やす。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを活用し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用を多角的に行い、学びの幅を広げ、英語や異文化に対する知識・理解を深めさせる。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・希望者課外等を通じて、上級学校受験にも対応できる応用力を付けさせる。 	B		
家庭	基礎・基本の定着と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノートや学習プリント、ICTを活用してわかりやすい授業づくりに努める。 ・提出物の確認を通して学習意欲を高めるとともに、つまづきに気づき支援する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用 ・段階的に技術力を向上させる課題の設定 ・生活から課題を見出す力の育成
	技術力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・実習する時間を十分に確保する。 	A	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・技術検定の受験者全員合格を目指す。 	B		
	課題解決能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、家庭や地域の生活を充実・向上させる力を育てる。 	B	B	
情報	情報リテラシーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・情動的な見方や考え方を養う上で基礎となる態度、技能、知識を身につけさせる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教材の選定 ・アルゴリズムやプログラミング教育の充実。 ・生徒同士と教えあう教科指導の研究。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高い生徒や目標意識が明確な生徒に対して、発展的な学力をつけさせる。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の低い生徒に対して、分かりやすく丁寧な指導を行う。 	A		
	一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・自らテーマ（問題意識）を持ち、自ら学び、自ら考える主体的な学習態度に結びつくような教材作りと探究的な授業展開の工夫を行う。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルと情報リテラシーを授業テーマに盛り込み、SNSトラブル予防に努める。 	A		
	指導方法の改善と研修体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が満足できる授業の実践及び工夫改善のため、研修の実施に努める。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、授業態度、提出物、検定試験等をふまえて総合的に行う。 	A		
適切な情報端末の使用についての指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にスマートフォンなどの情報端末の適切な使用方法を指導し、生徒の生活に影響が無いように努める。 	A	A		
工業	「技術者」としての育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全第一」の精神を浸透させ、「ゼロ災害」に努める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年々学力低下が著しい生徒に対する対応。 ・工業人として社会に貢献できる人材育成。 ・探究が目的になるのではなく、「技術者」としての育成を
		<ul style="list-style-type: none"> ・安全靴、作業服をきちんと身に付けさせ、社会生活に必要なマナーを身につけられるよう支援する。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・報告書の期限とその重要性を理解させ、主体的に判断し、行動する力の向上を図る。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・実習を欠席した生徒に対しては必ず補習を実施する。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が将来の夢や希望を実現できるように、資格試験の受験率・取得率の向上を図る。 	B		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTや補助教材を活用し、基礎学力の定着と主体的に学ぶ姿勢の充実を図る。 	B	B		
基礎的な学力の向上					

別紙様式 2 (高)

		・他者との協働による課題解決を目指し、話し合いや試行錯誤の上手な取り組みを行う。	A		目指す。
	授業改善と評価	・教科に関する研修会を実施して授業研究及び教材研究を行う。	B	B	
		・評価は、テスト点、課題提出状況、授業態度、報告書提出状況、出席状況等を観点別に評価し、総合的に判断して行う。	A		
商業	基礎的な学力の向上	・各種資格試験への取り組む姿勢や意欲を高めることを通して、問題解決能力の育成を図る。 ・ビジネス学習を通して社会通念やビジネスマナーの定着を図る。	A B	A	・学習意欲が低い生徒に対する対応。 ・実学である商業科目の学習を通して、商業人として社会に貢献できる人材育成。 ・資格取得の向上。
	ひとり一人の能力に応じた指導の工夫と授業改善	・生徒の実態や能力に合わせた学習指導の進度を工夫し、指導効率を高める。	B	B	
	専門的な知識・技術の習得	・文書作成や情報処理などの学習を通して合理的に考え、処理していく能力を身につけさせる。	A	A	
福祉	学習に取り組む目的意識の向上	・生徒が主体的に学習に取り組むために必要な生徒支援を、福祉科教員内で共通認識を持ち、取り組む。	B	B	・専門職から直接学べる環境を活かし、授業が国家試験、実践的な学びに繋がるよう、福祉科・生徒・実習先と共通理解を持ち、特にTT・実習助手として関わる授業も連携・協働して取り組む。
	個に応じた指導の工夫・授業改善	・生徒が社会福祉や介護福祉に興味・関心を持つことができるように、個々の生徒の能力と実態に合わせて、丁寧でわかる授業の展開に努める。	B	B	
	専門的な知識・技術の習得	・社会福祉や介護福祉について、医療・看護分野等を含め、専門的な知識・技術を習得できるよう配慮する。 ・介護福祉士国家試験受験合格に向け、国家試験に関連させた授業実践に努める。	B B	B	
総合	自ら学ぶ姿勢の育成	・何のために学ぶのか、一人ひとりに目的や意義を考えさせる。	A	B	・今年度に引き続き複数学年で、同じテーマの探究活動を行う。また、その活動の定着化を図る。 ・マナー指導とあいさつ指導を取り入れる。 ・就業体験学習は、引き続き実施。事業所の精選（生徒が通しやすい場所・教員が巡回しやすい場所）。
		・幅広い選択科目を用意し、生徒自らが選択した学習に取り組ませる。	A		
		・資格取得に向けた働きかけを積極的に行う。	C		
	コミュニケーション力の育成	・コミュニケーション力の向上を目指し、相手の話を聴き主体的に判断し、行動する力を養う。	A	A	
		・講話や説明会、授業等で話を聞く場合に、メモを取る習慣付けを徹底させる。	B		
		・ICTを活用し課題研究や研究発表、実習・体験学習、プレゼンテーション等を経験させ、表現力を育成する。	A		
	マナー教育の充実	・清潔感のある制服着用を徹底する。外部講師の講演を行い、意識付けをはかる。	C	B	
		・挨拶だけでなく、時・場所・場面における言葉遣いを指導する。	B		
	心の教育の推進	・就業体験学習等を通して、社会人になったとき必要不可欠な「我慢する心」を育てる。	A	B	
・地域のボランティア活動を通して、奉仕の精神・達成感・自己肯定感を育成する。		B			
教務	円滑な教育活動の実践	・計画・実施・反省を繰り返し行い、スムーズな学校運営を推進する。	B	B	・中学校への広報活動をわかりやすい言葉や SNS を用いて行う。 ・学校パンフレット作成を早
		・教職員が円滑に連携し合える環境づくりに心がける。	A		
	授業改善の推進	・授業公開・授業参観の機会を積極的に設けることで授業改善を行い、丁寧でわかる授業の展開に努める。	B	B	

別紙様式 2 (高)

		・教科横断的な視点から探究的な学びを取り入れ、生徒が将来の夢や希望を実現できるようキャリア教育とICTの活用を推進する。	A	い時期に開始する。 ・持続可能な教務運営をするために、できる限り業務をコンパクト化したい。		
		・シティズンシップ教育を通して、自分たちの課題を見つけ、話し合い、自己決定する力を育成する。	B			
	授業時間の確保	・出張や年休時の授業交換を励行し、自習時間の解消に努める。	A		A	
		・学校行事の能率的運営を図り、授業時間数を確保する。	A			
	教育課程の編成と運営	・生徒の進路希望に合わせた効果的な教育課程を研究し、編成する。	B		B	
	校内諸データの整備及び活用	・学校全体のデータ管理とデータ処理を行い、教育活動への活用を支援する。	A		A	
	校内研修の充実	・人権教育等についての教職員の研修会を充実させる。	B		B	
		・研修の成果や情報を教員間で共有し、ICTを活用した報告会の充実を図る。	B			
	広報活動	・中学校や地域関係機関に対して、本校の取り組みを積極的に伝え、理解と連携を図る。	B		B	
		・学校案内、学校便り、ハイスクールガイド、ウェブサイト等の充実を図る。	B			
	ICT教育の活性化	・授業での主体的な学びに、ICT活用を推進する。	A	A		
		・いつでも、どこでも、だれでもICTを活用できるよう、情報機器の整備、拡充を図る。	A			
生徒支援	基本的な生活習慣の確立	・シティズンシップ教育をとおして、日常生活の様々な場面で主体的に考え、行動できるように支援する。	B	B	・心の健康観察・相談窓口の定着とチェック体制の徹底 ・制服の着こなしについて ・いじめが疑われる件への初期対応について	
		・挨拶の励行を人間生活の基本ととらえ、日常的・継続的に指導する。	B			
		・日常生活の様々な場面において、み(身だしなみ)「制服の正しい着用等」・そ(掃除)・あ(挨拶)・じ(時間を守る)の大切さをよく理解させ、自ら進んで行えるようにする。	B			
		・3年間をとおして、統一した頭髪服装指導を継続することにより、社会で通用する身だしなみとマナーの習得に努める。	B			
		・欠席・遅刻・早退をなくし、将来に夢や希望を持ち、前向きに学校生活に取り組めるように努める。	B			
		・校舎内外の環境整美に努め、きれいな学習環境で落ち着いて学校生活を送ることができるように努める。	A			
		・SHRや年次集会、学校行事等をとおして、継続した生活指導を行い、集団の一員としての帰属意識・個々の規範意識を高める。	B			
	安全で安心な学習環境の確立と問題行動の未然防止	・問題行動や交通事故の未然防止のため、通学路や校内の巡回指導を継続的に行う。	B			B
		・心の教育を推進し、他者を思いやる心を育み、いじめや暴力を根絶し、安心・安全に生活できる健全な学習環境をつくる。	B			
		・貴重品や自転車等の盗難防止と自己管理の徹底に努める。	B			
		・盗難防止のため、移動授業時の教室施錠や貴重品袋の活用を徹底する。	B			
		・薬物乱用防止・交通安全・性教育・情報モラル教育等を行い、生徒の意識高揚を図る。	A			

別紙様式 2 (高)

		・スマホ等の利用について、適切な利用法を啓発し、いじめやからかい、個人情報の流出等、SNS 利用に関する問題行動の未然防止に努める。	B		
	生徒の心に寄り添ったきめ細かな支援	・日常の対話を重視して生徒理解に努め、年次と生徒支援部が連携して支援できる体制を構築する。	A	B	
		・家庭との連絡を密に図り、生徒ひとり一人の心に寄り添ったきめ細かな支援を行う。	B		
		・いじめ問題について、未然防止・早期発見・見逃しゼロに努める。生徒面談や学校生活アンケートにおいても被害生徒が SOS を発信しやすい環境を整える。	B		
	地域との協力による生徒支援の推進	・家庭・近隣高校・関係機関と連絡を取り合い、地域全体で子どもたちを見守る体制をつくり、問題行動や事故の未然防止に努める。	A	A	
	特別な配慮を必用とする生徒への支援体制づくり	・特別な配慮を必要とする生徒に対し、組織的な支援体制を整え、教職員で共通理解を持ちながら指導できる体制をつくる。	B	B	
特別活動	学校行事を通しての帰属意識・協調性の涵養	・学校行事への積極的・意欲的な参加により、達成感と所属感を味わわせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化を進めていく ・生徒会役員を中心に校内行事や外部との関わりをより深め主体的な能力を育ていく
		・学校生活の基盤としてHR活動を充実させ、他者との心のふれあいを深め、協調性や連帯意識を培う。	A		
		・学校行事を通して、自主的・主体的な企画・運営のできる生徒会役員を育成する。	A		
	部活動の振興と活性化	・1年次生全員に部紹介・部体験等を実施し、部活動への積極的加入を勧める。	A	B	
		・中学生への体験入学における部紹介や、中学校訪問やHP等で部活動のPRを積極的に行う。	B		
		・部活動に必要な施設設備の充実を図る。さらに、外部講師を活用した顧問研修会の実施についても検討する。	B		
	生徒の自主的・主体的な活動の推進	・自主的な部活動を推進していくために、顧問が適切な指導を行う。	B	B	
		・ボランティア活動への参加を広く働きかけ、地域を構成する一員であることを自覚し、地域社会に貢献する心を育む。	B		
		・ホームルームや委員会、生徒会の役員等について、他者と協働し達成感を味わわせるシティズンシップ教育を推進する。	B		
	キャリア・パスポートの作成	・ホームルーム活動を通して、生徒が将来の進路を見据え、目的意識をもてるよう、キャリア・パスポートの活用法を指導する。	B	B	
進路指導	希望する進路の実現	・生徒との面談及び保護者への連絡を密にし、またICTを活用し進学・就職への情報提供を行い、進路意識の高揚や進路決定の実現を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者に対し、課外授業・課題配信・面接指導を行い、進路実現への力を養う。 ・就職希望者に対し、入社試験に耐えうる学力・コミュニケーション力を育成する。 ・ガイダンス以外にも、様々な機会をとらえて上級学校・
		・講話やガイダンスの場面を活かして、聞く力、表現する力などコミュニケーション能力の育成をはかる。	A		
	進学指導の充実	・進学希望の生徒に課外指導等を企画し、実力の養成を図ると共に希望する進路実現を目指す。	B	B	
		・スタディサプリ等の一層の活用を行い、より効果的な進学指導の在り方を検討・継続して進め、より上位校への合格を目指す。	B		
		・総合型選抜や推薦入試での合格力を高めるために、小論文や面接指導を強化する。	A		
	就職指導の充実	・1年次での就業体験や2年次での企業説明会等を企画し、進路選択の一助とする。	A	A	

別紙様式 2 (高)

		<ul style="list-style-type: none"> ・主権者として社会を見つめ、主体的に受験企業選択を行えるよう、情報提供を書類だけでなく ICT を活用して行い、個人が機動的な情報収集・分析等を行えるようにする。 ・社会人としてのマナーを習得するなど、社会人準備講座を企画し、内定後の指導を充実させる。 	A		<p>企業情報等を提供する。</p> <p>・生徒にとって、より有意義な進路行事を企画する。</p>	
			B			
保健厚生	生徒と教職員の心身の健康の増進	・学校環境の安全点検を行い、安全で安心のできる学校生活を推進する。	B	B	<p>・保健室の利用について、すべての生徒が適切に使える保健室を目指す。</p>	
		・保健室の正しい利用と効果的な運営に努める。	C			
		・定期健康診断等の各種検査においては円滑で完全な実施に努める。	A			
		・感染流行時等の予防・衛生活動や精神面でのケアを推進する。	B			
	学習環境の整備	・より現実にもった防災避難訓練を実施し、非常時の安全確保に努める。	A			
		・教育相談における担任・学年及び生徒指導部との連携とバックアップの体制を整える。	A			
		・生徒指導部と連携し、専門家の性教育・薬物乱用防止教育・禁煙教育等を実施する。	A			
		・環境美化と汚さないことの重要性を理解させる。	B			
		・清掃の徹底と適切なゴミの分別を目指す。	B			
		・清掃用具の管理点検と補充に努め、環境美化を推進する。	B			
	・暖房器具の安全管理と事故防止に努める。	B				
図書	図書館利用の増進	・生徒の希望図書を拡充し魅力ある本の選定に努め、図書館の利用率を向上させる。	A	A	<p>朝の読書週間は各クラスとも集中して読書ができるようになってきた。</p> <p>・スマホが普及してきているが、読書に親しむ機会を継続していきたい。</p>	
		・図書委員会の活動（「図書だより」の発行や書架整理など）を活発にする。	A			
		・読書週間を通して、読書に親しみ、楽しむ生徒の増加を図る。	A			
		・魅力ある図書館の雰囲気をつくる。	A			
	視聴覚教材の活用	・授業等における視聴覚教材の活用を推進する。	B			B
渉外	P T A 活動が開かれた学校づくりを推進する	・各種委員会を効率的に実施し、協同的な参加を図る。	B	B	<p>・PTA 総会をはじめとする、各種関連行事への出席率を上げるための方策。(P と T 両面で)</p>	
		・PTA 総会や各行事への参加を適宜促し、納得感が得られる活動にする。	B			
		・PTA 活動を通して保護者と職員の連携を強化し、教育活動への理解を求める。	A			
		・広報活動を適宜行い、学校行事など教育活動の様子を知らせ、開かれた学校づくりを推進する。	A			
		・PTA 行事の見直しを検討して、業務の精選を通じてできるだけスリム化する。	B			
1 年次	基本的な生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣と社会的ルールを身に付ける。	A	B	<p>・引き続き基本的な生活習慣の確立。</p> <p>・生徒の力を伸ばす学習指導の充実</p>	
		・日常生活や高校生活の基本を身に付けさせ、欠席、遅刻、早退を防止する。	B			
		・礼儀正しく、約束、規則を守る誠実で規範意識の高い生徒を育てる。	A			
		・服装、頭髪指導を継続的に行い、高校生らしい身だしなみを身に付けさせる。	B			
	学習指導の充実	・授業に集中させ、学力の向上を図る。	B			B
		・個に応じたきめ細かな指導に努める。	B			
		・ICT 機材を活用し、自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	B			
		生徒指導の充実	・日常の観察や面談を通し、生徒の実態把握に努め、生徒指導に生かす。			

別紙様式 2 (高)

		・小さな変化を見逃さず、早めの指導、個に応じたきめ細かな指導を行う。			
		・保護者と連携した指導を行い、問題行動を未然に防ぐ。	B		
	心の教育の充実	・他人を思いやる心を大切にし、安全で安心のできる落ち着いた生活環境を作る。	B	B	
		・毎日の清掃より、勤労と奉仕の精神を育む。	A		
		・情緒の安定に努め、自己を抑制する能力を高める。	A		
		・「道徳」の授業を充実させることにより、豊かな心の育成に努める。	B		
	進路指導の充実	・「産業社会と人間」を中心に、自己を探究する姿勢を培い、進路実現に向けて段階的に指導していく。	A	A	
		・来年度から始まる系列学習を充実したものとするため、系列選択について事前指導を徹底する。	A		
		・挨拶、言葉遣いなどの基本を身に付け、コミュニケーション能力を高める。	B		
	部活動・学校行事・HR活動の活性化	・文化祭やクラスマッチ等の行事に積極的にかかわることで、協調性を養い、達成感を体験させる。	A	B	
・部活動や委員会活動に積極的に参加することで、学校生活をより充実させる。		B			
・クラスでの役割を、責任を持って実施させることにより、ホームルームの一員としての自覚を持たせる。		B			
円滑な年次運営	・年次会や年次朝会等で情報交換を密にし、協力して指導にあたる。	A	A		
2年次	基本的な生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣を身に付けさせ、特に時間のけじめをつけ欠席・遅刻・早退の防止に努める。	A	A	・基本的な生活習慣の向上
		・他人に迷惑をかけないという社会的ルールを身に付けさせる。	A		
		・元気よく挨拶し、礼儀正しく、約束を守り、嘘をつかない誠実な生徒育成を進める。	A		
		・頭髪服装指導を継続的に行い、社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。	A		
	学習指導の充実	・授業に集中させ、学力の向上を図る。	B	B	
		・自己管理能力を向上させる。個に応じた指導に努める。			
		・家庭学習の習慣を付けさせる。	C		
		・自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	B		
	生徒指導の充実	・日常の観察や面接を通し、小さなサインを見逃さないきめ細かな指導を行う。	B	B	
		・家庭との連携を密にして、信頼関係を築く。	B		
		・欠席・遅刻・早退の多い生徒には、保護者と連携し、早めの指導を心がける。	A		
	心の教育の充実	・マナー教育を推進し、他人を思いやる心を育成して、安全で安心のできる落ち着いた生活環境をつくる。	B	B	
		・修学旅行を通じて、平和教育の充実を図る。	A		
		・毎日の清掃指導を中心に、環境に配慮できる心を育む。	B		
		・困難に状況でもあきらめない「我慢する心」を育てる。	C		
	進路指導の充実	・進路指導部と連携を密に取り、キャリア・パスポートを活用し、進路実現に向けて段階的な指導を進める。	B	B	
・意欲旺盛な生徒への課外指導を行い、実力養成に努める。		C			

別紙様式2 (高)

		・コミュニケーション力の向上をめざす。	B		
	部活動・学校行事・HR活動の活性化	・各行事への積極的な参加を促し、協調性を養い、達成感を体験させる。 ・部活動に積極的に参加することで、学校生活を豊かにする。	B B	B	
	円滑な年次運営	・年次会等で情報交換を密にし、学年全体が共通理解のもとに連携して指導に当たる。	B	B	
3年次	基本的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣及び社会的ルールや社会生活に必要なマナーを身に付けさせる。	B	B	・総合・LHRの計画を早期に立案しておく。
		・日常生活や高校生活の基本を身に付けさせ、欠席・遅刻・早退の防止に努める。	B		
		・礼儀正しく、約束・規則を守る誠実で規範意識の高い生徒を育てる。	B		
		・頭髪服装指導を継続的に行い、社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。	B		
	学習指導の充実	・授業に集中させ、基礎学力の定着や資格取得に取り組ませる。	B	B	
		・個に応じたきめ細かな指導に努める。	B		
		・家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B		
		・自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	B		
	生徒指導の充実	・日常の観察や面接を通し、生徒の実態把握に努める。	B	B	
		・家庭との連携を密にして、小さなサインを見逃さないきめ細かな指導を行う。	A		
		・欠席・遅刻・早退の多い生徒には、保護者と連携した継続指導を行う。	A		
	心の教育の充実	・他人を傷つけず、思いやりのある豊かな心を育成して、安全で安心のできる落ち着いた生活環境をつくる。	B	B	
		・最上級生であることを自覚させ、下級生の模範となるような言葉遣いや行動が取れるよう、年次集会等で意識付けを図る。	B		
		・共有空間の使い方を意識させ、生活空間をきれいにする心を育む。	B		
		・将来、就業するにあたって最も必要となる「我慢する心」を育てる。	B		
	進路指導の充実	・進路指導部と連携を密に取り、キャリア・パスポートを活用し、進路実現に向けて段階的な指導を進める。	B	B	
		・学力向上を希望する生徒への課外指導や学習アドバイスを行い、実力養成に努める。	B		
		・資格取得を推奨し、自己啓発および進路実現の一助となるようにする。	B		
・挨拶・身だしなみ・言葉遣いなどの基本を定着させ、さらにコミュニケーション能力を高める。		B			
部活動・学校行事・HR活動の活性化	・各行事の主体的な計画や参加により協調性を養い、帰属意識を高め、行事を成功させることにより、個々の成長を促す。	B	B		
	・部活動や委員会活動に積極的に参加させ、学校生活をより充実させる。	B			
円滑な年次運営のための働き方改革とコンプライアンスの徹底	・年次会等でクラス横断的に情報交換し、共通理解のもと協力して指導にあたる。	B	B		
	・学年行事の見直しを行い、選択と集中に努め、業務効率化を図る。	B			
	・心身ともに健康に、先生方の専門性を十二分に発揮して頂けるよう、健康管理に努める。	B			

※ 評価基準：【5段階評価】

A：達成した(達成率75%以上) B：ほぼ達成した(達成率50～74%) C：達成やや不十分(達成率25～49%) D：達成不十分(達成率24%以下) E：できない